

編集 後記

10月には第66回日本公衆衛生学会総会が開催され、1,500近くの演題が発表されました。これだけ多くの研究および実践報告が行われながら、現在、日本公衆衛生雑誌に掲載される論文数はかなり限られています。それは、雑誌に掲載する論文の学術的な質を担保する必要があるからですが、一方で、学会誌は学術論文による知見の提供だけでなく、より広く学会員に貢献する内容にすべきとする意見もあります。この点に関して日本公衆衛生雑誌は、雑誌の内容を充実して有用な情報を広く学会員に提供するために、本年度より、公衆衛生に関する行政の動きやトピックス、研究手法等に関する情報を提供するための「連載」を始めています。また、投稿原稿の種類には「公衆衛生活動報告」があります。公衆衛生は実践の学問ですから、科学的に探求された新しい知見だけでなく、それらの知見をいかに実践に適用するかといった実践への還元に関する方法論の探究や開発もまた不可欠です。研究および実践の成果を、公衆衛生領域で活用および普及される可能性が最も高い本誌で発表することが、公衆衛生の向上と実践の発展に直接的に寄与することにつながると考えます。公衆衛生実践からのご報告をお待ち申し上げております。

日本公衆衛生雑誌第54巻第11号では、原著論文1編、公衆衛生活動報告1編、資料3編、連載2編をお届けします。研究対象は児童から高齢者と多様であり、研究内容も多彩です。近年の公衆衛生に関する新しい法や制度

12号予告 (第54巻・第12号)

原 著

精神障害者に対する偏見減少のための教育的介入の効果

高校生における教育的介入の評価

.....山口創生, 他

過体重・肥満成人における運動と食習慣の改善による体重減少を目的とした地域保健プログラムの有効性.....江川賢一, 他

資 料

不安定就労・生活者にとっての Directly Observed Treatment, Short-course (DOTS) 受療の意味

横浜市寿地区における結核患者への面接調査

.....長弘佳恵, 他

連 載

臨床疫学の基礎(6).....大久保一郎

高齢者保健・福祉(4).....寺岡加代

の制定、その改正はめまぐるしいものがあります。人々の健康生活を守り増進するよう、政策立案のためのエビデンスを提供し、法や制度に基づく活動を評価する公衆衛生学の責任は大きく、本誌の役割もますます大きくなるだろうと感じています。本号に掲載されたこれらの研究もまた、政策に影響し得るエビデンスとして機能していくであろうと考えられます。(麻原きよみ)

第1報「第1回アジア太平洋ヘルスプロモーション・健康教育学会」

会 期 2009年7月18日～20日

会 場 幕張メッセ国際会議場

主 催 ・ヘルスプロモーション・健康教育世界連合・西太平洋北部地域 (NPWP/IUHPE)
・日本健康教育学会

学 会 長 武藤 孝司
(IUHPE 理事, 獨協医科大学教授)

公式言語 英語 (基調講演とシンポジウムは同時通訳有り)

事 務 局 獨協医科大学医学部公衆衛生学講座

TEL : 0282-87-2133 FAX : 0282-86-2935

E-mail : apac@dokkyomed.ac.jp

詳細は下記の学会ホームページをご覧ください。

http : //www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/pub/apac.html